



喜多埜

大被

十二月三十一日といえば、皆さんご存知の

大晦日ですが、この大晦日は神道においては大事な日でもあります。それは半年の間に、**知らず知らずのうちに溜まったケガレ**を被い清める神事の日でもあるのです。その神事を**大被（オオハラエ）**といい、六月三十日とこの十二月三十一日がその日にあたります。特に**十二月は年越し**という節目であるので、古来より重要視されてきました。大被自体は一般の方が目にする機会はありませんが、**平安時代以前から行われていた**といわれ、**知らずのうちに犯した殺生や、普段の生活での精神的疲労、そういった気力が枯れた状態が** **本当の意味での『気枯れ（ケガレ）』**であり、それを被い清めて一新する神事が大被です。

十二月三十一日は、神社で「**神さま**昨年のケガレをお被い下さい」と願って参拝し、そして年が明ければ、「**神さま**のお陰で一新しました。また今年一年もどうかお見守り下さい」と願っての二年参りも、**心機一転の**良い節目になられるのではないのでしょうか。

初詣のご案内

来年、一月一日は午前零時開門、午後六時頃閉門となっています。授与所も午前零時からですが、**こちらは午後五時で受付終了**ですので、御守、御札などの授与をご希望の方は**この時間までにお参り頂きます様**お願い申し上げます。

クリスマスツリーと神道

十二月二十五日といえばクリスマスです。

この日飾るクリスマスツリーの起原には諸説ありますが、キリスト教の信仰ではなく、**中世のドイツ地方に伝わる信仰**であったという説が有力のようです。ドイツの山岳地帯に生える**モミの木には小人が住んでいて、村々に幸福を授けるといわれ、花や卵、ロウソクの明かりをモミの木に飾り、その周囲を踊りまわるお祭りがある**そうです。これがそもそもの起原と言われますが、有識者によっては**また違う見方もある**ようで、諸説様々です。

明治時代に日本に入ってきたクリスマスツリーですが、何故、キリスト教の国でもない日本でもこうも簡単にクリスマスツリーの風習が広がったのでしょうか。私は、そこには**日本人の自然崇拜観とドイツの自然崇拜観の一致**があったように思えます。木々に宿る何かから**ない大きな力を、日本では神と呼び、ドイツでは妖精と呼んだ**のでしょうか。

いまでも神道では、神社の外で神事を行う際に、**神籬（ヒモロギ）**という榊などで作ったツリーのような**依代（ヨリシロ）**に神さまをお呼びし、神事を行います。崇拝する神の概念に違いはあっても、**神道には宗教の根幹的部分**を感じます。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ボーダフォン
ez web 対応



編著 網敷天神社 禰宜（神主）

白江 秀知

